

市長（作野広昭君）

小川議員の質問にお答えいたします。

議員御指摘の平成の大合併の引き金となったのは、小泉内閣当時の地方交付税の大幅な削減であります。

この小泉改革によって、交付税への依存が高い財政力の弱い自治体は、一般財源の大幅な減少から予算規模の縮小を余儀なくされました。このことは必然的に住民サービスの低下を招くことになりました。それが嫌なら合併しなさいというのが、小泉改革の狙いであったと考えております。

8つの自治体が合併した白山市は、極端に財政力が弱い自治体を含んだ合併であり、実際、合併しなければ予算も組めなかった自治体がありましたし、赤字決算のままで、あるいは三セクなどに借金をつけかえて合併した自治体もあったことは、議員御案内のとおりであります。

そして、これらの赤字を解消するために、本市においてこれまで大きな痛みを伴う行財政改革を積極的に進めてまいりました。

これらの改革を通して、私はこれまでもさまざまな御意見をお聞きしており、必ずしも住民の皆さんが合併に対して満足していない部分もあると認識しています。

次に、白山市総合計画基本計画の進捗状況及びまちづくりの成果と今後の見通しについてであります。

基本計画の進捗につきましては、既に完了した、あるいは目標値

を達成した事業もあれば、継続中の事業もあります。例えば、障害のある児童・生徒を支援する小・中学校の特別支援員については、新年度より 38 名体制にすることで、目標値である 36 人をクリアすることになります。

また、観光イベントなどによる入り込み客数は、年間 28 万人の目標値に対し、今年度は 29 万人を超えることが見込まれるほか、3 園あった公立の幼稚園につきましても、新年度より松任幼稚園 1 園のみとなり、目標値を達成することになります。

今後の見通しにつきましては、市民の皆さんが末永く住んでよかったと誇れるような、安全安心のまちづくりを進めるため、総合計画に記載の各種施策を着実に実行してまいりたいと考えております。